

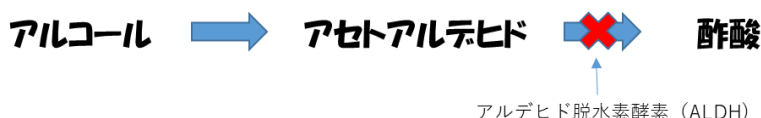
## 薬剤部 DI ニュース

## アルコール依存症に対する薬

アルコール依存症の治療薬は当院には採用はありませんが、入院してくる患者さんが服用していることはままあります。相互作用で注意が必要なものや、関連する薬剤もあるため、紹介していきたいと思います。

・ **抗酒療法薬…ジスルフィラム（商品名：ノックビン）、シアナミド（商品名：シアナマイド）**

アルデヒド脱水素酵素(ALDH)を阻害し、この薬剤を服用中に飲酒した場合、吐き気や顔面紅潮、頭痛等、アセトアルデヒドによる不快な反応を引き起こさせるものです。生活の中で飲酒をしたくなるような出来事があった場合にも「飲んで気持ち悪くなるからやめよう」と考え、心理的に飲酒を断念しやすくなるという効果があります。



抗菌薬の中にはこの薬と類似した作用（ジスルフィラム様作用）を持つものがあり、添付文書上で『投与期間中及び投与後少なくとも1週間は飲酒を避けさせること（セフメタゾールNa注 添付文書より）』などと記されています。当院採用の薬剤では、セフメタゾールやメトロニダゾール（商品名：フラジール、アネメトロ）があります。



・ **断酒補助薬…アカンプロサート(商品名：レグテクト)**

アルコール依存によって崩れた脳の興奮と抑制のバランスをとる薬剤です。前述の薬剤と異なり、飲酒欲求そのものを抑える効果があります。

・ **減酒薬…ナルメフェン（商品名：セリンクロ）**

日本では2019年から使われている新しい薬剤です。断酒ではなく、飲酒量を減らすことを目的としています。お酒を飲む1~2時間前に服用することで、飲みたい気持ちを抑え、飲酒量を減らす効果があります。オピオイド受容体に拮抗する効果があるため、麻薬との相互作用があり、禁忌となっています。

『本剤によりオピオイド受容体作動薬の離脱症状を起こすおそれがある。また、本剤によりオピオイド受容体作動薬の鎮痛作用を減弱させるため、効果を得るために必要な用量が通常用量より多くなるおそれがある。緊急の手術等によりやむを得ずオピオイド系薬剤を投与する場合、患者毎にオピオイド用量を漸増し、呼吸抑制等の中枢神経抑制症状を注意深く観察すること。また、手術等においてオピオイド系薬剤を投与することが事前にわかる場合には、少なくとも1週間前に本剤の投与を中断すること。（セリンクロ 添付文書より）』